事務事業評価シート　（評価対象年度：平成30年度）

1.基本的事項 【PLAN】

①事務事業名	動物愛護協議会運営補助事業	②事業番号	3202
③事業類型	2. 法上（任意）事業	④開始年度	平成 28 年度
⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし		
⑥根拠法令等	○法令 / 条例 / 規則 / 要綱 / 計画等 / その他	法令等の名称	動物愛護及び管理に関する法律
⑦実施手法	直営 / ○全部委託 / 一部委託 / 補助・負担 / その他		
⑧関連予算科目コード	款 4 / 項 1 / 目 6 / 細目 2		
⑨担当部名	市民生活環境部	⑩担当課名	環境整備課
会計	一般会計		

2. 事務事業の現状把握 【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

（1）対象（誾、何に対して事業を行うのか）	対象指標（対象者数を表す指標）	単位
① 犬の登録件数	① 犬の登録件数	件
②	②	

（2）事業内容（具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか）	活動指標（活動の量を表す指標）	単位
地域における犬・猫等の動物の愛護の推進に熱意と識見を有する者から動物愛護推進委員を委嘱し、動物の愛護及び管理の推進を図る。 （移譲事務を泉佐野市に委託）	① 移譲事務交付金	千円
	②	
	③	

（3）意図（対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか）	成果指標（意図の達成度を表す指標）	単位
市域で飼われている犬や猫等の動物の愛護と適正飼育に関する普及啓発活動を行う。	① 移譲事務交付金	千円
	計算式	
	②	
	計算式	
	③	
	計算式	

（4）結果（対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連）	総合計画体系上の位置付け		
市域で飼われている犬や猫等の動物の愛護と適正飼育の向上につながっていく。	政策（章）	5	快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
	施策大（節）	3	日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします
	施策中	1	資源・エネルギー有効利用の推進
	施策小	1	公害の予防

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	犬の登録件数	件	3,900	3,900	3,806	4,000	4,000	
対象指標②								
活動指標①	移譲事務交付金	千円	83	31	31	31	―	
活動指標②								
活動指標③								
成果指標①	移譲事務交付金	千円	83	31	31	31	―	
成果指標②								
成果指標③								
事業費 投入人員	正職員	人	0.05	0.05	0.05	0.05		事業費などの推移における特殊要因などの説明
事業費 投入人員	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費 投入人員	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費 事業費	人件費（投入人員＊単価）	千円	402	402	405	402		
事業費 事業費	直接事業費	千円	83	31	31	145		
事業費 事業費	総事業費	千円	485	433	436	547		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
財源内訳	府支出金	千円	83	31	31	31		
財源内訳	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
財源内訳	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
財源内訳	一般財源	千円	402	402	405	516		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	広域連携として本市を含む2市3町が大阪府からの環境農林水産行政に関する移譲事務を泉佐野市に委託することになり、「動物愛護推進委員の委嘱及び協議会の設置」事務も含まれる。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	犬・猫等の動物を飼ううえでのマナー向上が叫ばれている。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	―

3. 事務事業の評価 【CHECK】

〔1〕目的妥当性（必要性）　A.高い　B.やや高い　C.やや低い　D.低い　〔1〕の評価 A

評価項目			評価及び理由・説明等
①事務事業の意図すること（目的）は、上位施策（施策小）の達成に貢献しますか。	ア	ア．する イ．ある程度 ウ．しない	市域で飼われている犬・猫等の適正飼育の啓発活動に貢献している
②税金を使って達成する目的ですか。 （市が関与する必要がありますか、市民（特に納税者）の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。）	ア	ア．はい イ．ある程度 ウ．いいえ	本市を含む2市3町が広域連携として泉佐野市に受託した事務である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 （他団体と比較してどうですか。）	ア	ア．合っている イ．ある程度 ウ．いない	動物の適正飼養の啓発活動も取り組は必要である。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活（あるいは上位施策）への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア	ア．影響がある イ．ある程度 ウ．ない	広域連携による事務のため、本市独自では決めれない。

〔2〕有効性　A.高い　B.やや高い　C.やや低い　D.低い　〔2〕の評価 A

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア	ア．得られている イ．ある程度 ウ．いない	市域で飼われている犬・猫等の適正飼養の向上に貢献している。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 （事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。）	イ	ア．ある イ．ない	―
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア	ア．類似なし イ．できる ウ．できない	―

〔3〕効率性　A.高い　B.やや高い　C.やや低い　D.低い　〔3〕の評価 A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト（直接事業費＋人件費）を削減する手法はありませんか。 （業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。）	イ	ア．ある イ．ない	広域連携として本市を含む2市3町が泉佐野市に受託した事務のため、本市独自のコスト削減は困難である。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 （歳入確保はできませんか。）	イ	ア．ある イ．ない	大阪府から環境農林水産行政（動物愛護推進委員の委嘱等）の交付金を得ている。

4. 総合評価

	評価（A～D）	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	
総合評価	A	今後も市域で飼われている犬や猫等の適正飼養の啓発活動の取組は、動物の愛護及び管理の推進につながっていく。	A：現状のまま事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休止・廃止の検討が必要

5. 改革、改善案 【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア

ア．現状のまま継続　イ．見直しのうえで継続　ウ．終了（＿＿年まで）　エ．休止（＿＿年から）　オ．廃止（＿＿年から）

＜今後の展開方針＞

a. 重点化する（集中的なコスト投入）
b. 手段を改善する（実施主体や実施手段を変える）
c. 効率化する（コストを下げる）
d. 簡素化する（規模を縮小する）
e. 統合する（他の事務事業と統合する）

①改革、改善の具体案、実施年度など	―
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	―